

平成23年度 産業建設常任委員会行政視察報告書

平成23年11月22日

1. 日 程 平成23年10月26日（水）～28日（金）
2. 視察先等 兵庫県伊丹市 人口19.7万人 面積25km²
大阪府寝屋川市 人口24.0万人 面積25km²
3. 視察事項
 - ・ 中心市街地活性化基本計画について（伊丹市）
 - ・ 寝屋川市立産業振興センター事業について（寝屋川市）
4. 視 察 者 一行 9名
 - ・ 委員 高井 保 委員長 小野吉太郎 副委員長
森川 豊 委員 森山 一理 委員
安田 憲喜 委員 樋口 浩二 委員
佐野正三良 委員
 - ・ 当局 珊瑚 保（都市計画課長補佐）
 - ・ 随 行 糸山 太（議会事務局係長）

伊丹市

【市の概要】

県の南東に位置し、大阪府豊中・池田市と接し大阪市から約10km圏内にあり、古くから街道、交通の要衝として栄えており、酒造業は江戸のころより始まり有名であります。

現在は大阪国際空港の利点を生かし、産業都市としても発展しております。

また安全、安心のまちづくりの観点から、まずは子供たちの安全のためにと市内小中学校の耐震化100%を達成しております。

【事業の概要】

最近の商業施設の競争強化のための大型化、そして郊外への展開が進み、結果として駅前からの、まちの顔でもある中心商店街の空洞化が景気低迷とも重なり、シャッター通りとして目立ってきた現状を何とかするため、中心市街地活性化法が改正されたのを機会とし、内閣総理大臣が認定し、支援処置が講じられるというスキーム認定事業で商店街を底から活性化しようというものであります。

【所見】

このところの商店街の顔色は、全国ほとんどの商店街がそうであるといえるほど真っ青な状態で、もはや治らぬ病では、と思われております。

このままにしてはいけないと、あの賑やかだった元気のある街、商店街を蘇らせようと、計画を策定し動きだした自治体があります。

伊丹市もその自治体の一つであり、やがて来ようとしている見直し社会に先手を打った自治体だと感じました。

空き地になった商店街の中に四階建て図書館を建設し、一、四階を他利用し、二、三階を図書館にする。図書館の年間利用者は四万人を見込んでおるとのこと。その利用人口を商店街につなげようというもので二十万都市のなせる技か、世界情勢を見、日本の将来あるべき姿を描いたとき、行政と住民との一体感がなし得ようとしている成果が私たちにも何か見えて来るような気持ちにさえさせてくれました。

寝屋川市

【市の概要】

大阪府の東北部淀川左岸に位置しており、東部の丘陵には多くの遺跡や古墳が点在して、西部の平坦地は穀倉地帯として発展した所で、現在は住宅都市として大阪市への通勤圏として発達しております。

【事業の概要】

産業振興を中心に、事業者間交流のネットワークやインターンシップ等、交流事業の情報や事業の促進に必要な支援施策等を一元的に情報発信するために、市立産業振興センター（にぎわい創造館）を設立し、そこに市民、学生、事業者等が自由に利用できる交流サロンの設置で、各種の支援情報の提供を事業活動に直結して行こうとする新しい形の産学公の交流事業の創出を図ろうとする事業であります。

【所見】

産学公そして市民が協働してまちおこしの起動力になろう。そんな気持ちがぞくぞくと伝わってくるような新しい感覚の事業だと感じました。

それは08年4月に定められたまちづくりの基本理念と原則を定めた「みんなのまち条例」が施行され、協働と創造からなる協創を推進しておると聞き及びました。やる気になればやれる。ということとそれには産学公の一つになって進むための計画、ビジョンの必要性をただ一つ、感じて帰ってまいりました。